

若手研究者発表会

市民和解促進のための日韓歴史問題研究

中曽根政権期における日朝関係

—東アジア国際関係と日朝二国間関係の交錯—



1983年1月、中曽根首相は就任後最初の外遊として韓国を訪れました。

日本の首相としては初の公式訪韓であり、中曽根首相の訪韓で懸案の40億ドル経協問題は一気に片付き、教科書問題以来ぎくしゃくしていた日韓関係は大きく改善しました。

一方で、中曽根政権が、韓国との関係に配慮しながら、北朝鮮との関係も同時に進めていたことは、それほど知られていない歴史であります。

2024年4月に東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻で「中曽根政権期における日朝関係—東アジア国際関係と日朝二国間関係の交錯—」というタイトルで博士論文を執筆した崔智喜さんに、その詳しい話をうかがいます。新冷戦下であったものの、共産・自由主義陣営というイデオロギーの意味でも、政府・非政府が相互補完する手法においても、必ずしも二分法的ではなかった中曽根政権期の対朝鮮半島外交に関する最近の研究成果は、今のような国際情勢の中でこそ、示唆するところが多いと考えられます。

●中曽根政権期における日朝関係—東アジア国際関係と日朝二国間関係の交錯

発表者：崔智喜（東京大学）

コメンテーター：若月秀和（北海学園大学）、李秉哲（青山学院大学）

司会：木宮正史（東京大学）

日時：2024年7月22日（月）10：30～12：00

形式：対面・Zoomの併用形式（対面参加の定員数：約20名）

会場：東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム4

言語：日本語（通訳なし）

●参加費無料、ただし、7月19日（金）までに事前登録が必要です。

下記のウェブフォームでの登録をお願いいたします。

開催日までに、事務局よりメールでURLをお知らせします。

ウェブフォームでの事前参加登録は、

<https://forms.gle/9sBSt1JTEHSyxrNS6>

事前登録

QRコード



●お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp

（東京大学韓国学研究中心事務局）

主催：東京大学韓国学研究中心 後援：韓国国際交流財団